

臨床実習の事前準備として最も役に立つ方法とは？

作業療法士学科夜間部

【背景】

作業療法士の臨床実習における事前準備として、京極¹⁾は、臨床実習までに準備しておくものは、①基礎・専門知識の再確認 ②実習地の情報収集 ③評価・治療実技の練習を挙げている。しかしながら、学生は臨床実習の全体を通して一般的にどのような困難に直面するのかよくわかっていないという問題点があるとされている。また、夜間部の学生は仕事と学業の両立から時間的制約も多く、効率良く的確な事前準備が有効であったかを明らかにする必要があると考え、臨床実習の事前準備として最も役に立つ方法について検討した。

【対象および方法】

対象は、大阪医療福祉専門学校²⁾の作業療法学生夜間部4年34名(男性17名、女性17名)である。方法は、アンケートの単純集計である。調査にあたり、倫理的配慮について書面で説明し同意を得て行った。

【結果】

実習前の事前準備と実習後の事前準備について変化があるかの調査を行った。その結果、書籍や文献使用する事、また、先輩や同級生からの情報が挙げられる。

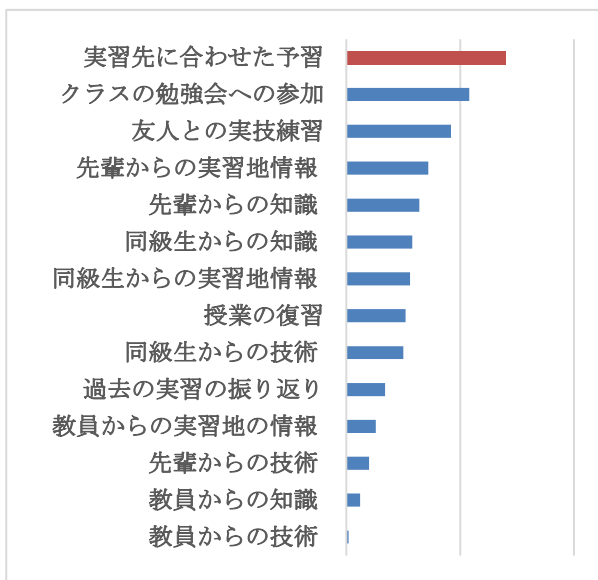


図1：実習前の事前準備

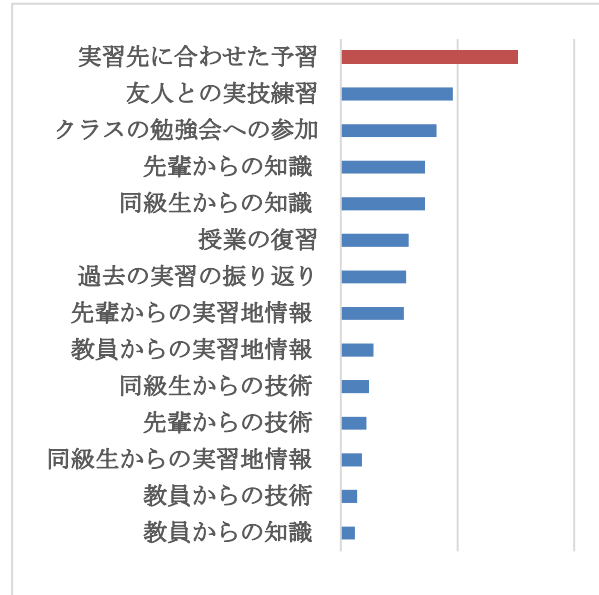


図2：実習後の事前準備

【考察】

結果より、自己にて実習先に合わせた書籍や文献で疾患を調べ、クラスでの勉強会や少人数での評価・治療実技の必要性が高いと考えられる。また、Edgar Daleによると、学生間での知識の理解・想起を深め、記憶の定着化や教える側の学習力の安定化を図る事ができる³⁾と述べられており、必要性が高いと考える。見学実習や評価実習で学んだ事を臨床実習前に振り返る事で、様々な疾患の知識の想起に繋がるのではないかと考える。

【まとめ】

臨床実習における事前準備として、実習先に合わせた疾患の予習の為には文献などで勉強をした上で、クラスでの勉強会や友人との実技練習に参加し、知識を深める事で、実習後でも実感が得られたのではないかと考え、時間の制約が有る中でも、臨床実習で有効に時間の活用ができるのではないかと考える。

【文献】

- 1) 京極真, 鈴木慶雄: 作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック. 誠信書房. 東京, 2009, 120-150.
- 2) Edgar Dale: Audio-Visual methods in teaching. drydenPress, 1946, 37-39.